

序 文

本研究業績集第3輯には主に昭和54年中の発表の分が記載されることになると思われるが、いろいろの意味で1つの区切りの年でもあったと言えよう。一般教育教室，基礎医学講座，事務局などが根拠地の杉谷の地に来てから3年目になり次第に順調な研究生活に入っており，薬学部移転，図書館開館の年であり，10月には竣工式，および病院の開院式の挙行，同月15日には診療開始があった。診療面の活動が比較的順調に推移しているのは御同慶の至りである。これにて不十分な状態ではあるが一応名実ともに出発出来たと言えるし，とくに臨床面に関する新たな成績が得られ，これが業績集に記載されるのは今後になるであろうがこれらの基礎が出来たと思われる。

本学に特徴的と言える医，薬学部，和漢薬研究所の各部の者が種々の組合せによって新しい方向への進展，開発が期待され，既に幾つかの発芽の希望が出てきつゝあるのは喜ばしいことであり，若いエネルギーに敬服せざるを得ないし一層の精進が望まれる。これからが本格的成績の1つとなって本研究業績集の価値が一層大きくなると思われる。それにしても協力体制の一翼の和漢薬研究所が本4月に移転して，十分に整頓され，一層密切に諸条件が充実されてくるのを鶴首している。

昭和55年3月

学長 平松 博

